

事業概要説明シート

事務事業番号 31089

事務事業名	議会報発行事務		
事業開始年度	昭和31年度	担当部署	市議会事務局

根拠法令	枚方市議会議会報発行規程、枚方市議会議会報発行要綱、議会報編集基準
実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:)
	<input checked="" type="checkbox"/> その他(一部委託<民間企業>)

目的 (何のために)	市議会の活動状況を市民に知らせ、市民の議会に対する理解と認識を深めるため議会報を発行し、もって市政の発展に寄与すること。
---------------	--

対象 (誰・何を対象に)	市民
-----------------	----

事業内容	枚方市議会報は、年6回(3月、6月、9月、12月の各定例会と5月の臨時会后、及び正月)発行しており、配布先は、本市の全世帯(全事業所、市内各施設含む)である。また、議会報の内容は、目の不自由な方にも議会の活動を知っていただくため、全文を点字で記載または朗読したものを録音する形で、点字議会報と声の議会報を発行している。あわせて、インターネットでは、ホームページ上で議会報のPDF版を閲覧できるほか、音声版として声の議会報を聴くことができる。なお、議会報は、市議会議員で構成する議会報編集委員会にて協議・決定した内容に基づいて、職員が編集作業を行っている。
------	---

類似事業	なし
------	----

事業の必要性	行政と住民をつなぐ役割を果たすのが地方議会であり、議員は住民の代表として行政と対峙している。したがって、議会報によって全市民に対して等しく議会の活動を周知することは、地方自治の本旨の一つである住民自治を担保していく上で、不可欠である。
--------	---

コスト		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
		従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費
正職員	1.75人	14,630千円	2.5人	20,645千円	2.5人	20,080千円	
再任用職員		0千円		0千円		0千円	
非常勤職員等							
人件費計(A)		14,630千円	20,645千円	20,080千円			
直接経費(B)		8,647千円	8,178千円	11,250千円			
総事業費(A+B)		23,277千円	28,823千円	31,330千円			

財源内訳		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
国庫支出金			千円		千円		千円
府支出金			千円		千円		千円
受益者負担 (使用料等)			千円		千円		千円
その他			千円		千円		千円
一般財源		23,277千円	28,823千円	31,330千円			

平成23年度 事業費の主な内訳 (人件費除く)	内 容	金 額
	議会報発行経費(印刷費3,861、声の議会報・点字議会報作成委託料1,065、議会報配布委託料3,252)	8,178千円
		千円
		千円

事業概要説明シート

事務事業番号 31089

事務事業名	議会報発行事務		
事業開始年度	昭和31年度	担当部署	市議会事務局

	活動指標もしくは成果指標	単位	H22年度	H23年度	H24年度(見込み)
活動実績	① 本会議の招集回数に対する発行回数	%	100.0	100.0	100.0
	②				
	③				
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	①				
	②				
	③				
成果目標 (目標とする成果)	開催されたすべての本会議の内容をわかりやすく紙面に掲載し、全戸配布を行うことで、市議会の活動を全市民に公平に伝える。				
比較参考値 (他自治体での事業の例など)	議会報(議会だより)は、各自治体によって発行形式が異なり、本市ではブランケット判を採用している。府内でブランケット判を採用している自治体は他にないが、それぞれの発行形式を1部あたりの印刷単価のみで比較すると、タブロイド判(日刊紙の半分のサイズ)を採用している四條畷市では平均で約11円、門真市では平均で約4円、寝屋川市では平均で約5円となっている。冊子判を採用している交野市では平均で約30円、大東市では平均で約18円となっている。一方、本市が採用しているブランケット判は、平均で約4円と、他市に比べ安価となっている。なお、ブランケット判には、紙面が日刊紙大であることから、ページをめくらずに一目で読みたい記事を見つけることができるというメリットがある。				
特記事項	昭和32年1月15日にタブロイド判として、枚方市議会報は創刊した。その後、同44年にブランケット判に変更し、現在に至る。なお、平成23年7月には議会報編集委員会で、今任期における議会報の規格変更(A4判化)について協議していただき、主にコストの点から当面は現行のブランケット判により発行することが決定された。また、国際障害者年の昭和56年に、視覚障害者からの要望にこたえ、点字議会報と声の議会報を創刊した。本市議会では、議員個人の賛否の状況を掲載しているなど、全国的に見ても情報公開度の高い取り組みが進んでいる。また本市議会が発行している声の議会報・点字議会報は、発行している市議会も少なく、先進的な取り組みである。				
一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	改善	議会報の在り方等について、引き続き議会報編集委員会で検討する。また、議会報の記事作成等にかかる繁忙期には、職員間で調整を行い、業務量の平準化を図る。			
一次評価結果	<ul style="list-style-type: none"> 議会報の在り方や発行手法の効率性・有効性の検証が必要では？ 事務の見直しの作業工程はどのようにになっているのか 				
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	改善	議員で構成する議会報編集委員会の協議を経た上で、市政モニターアンケート制度を活用し(12月実施予定)、議会報に対する意見・提案や満足度について市民の声を集め、同委員会で議会報の在り方などを検討していただく。あわせて、府内及び類似団体への調査を実施し、引き続きコストの比較・分析に取り組む。 また、議会報の記事作成等の繁忙期には、職員間で調整を行い、引き続き業務量の平準化を図る。			